

畧

譜

哀

股部

内閣文庫	
五 六 面	三 六 〇 八 二 二 架
九	八
架	冊

390

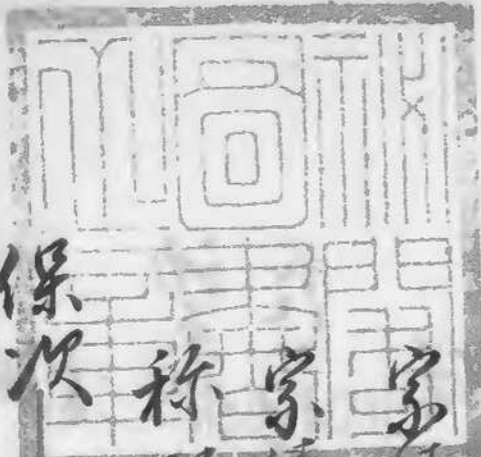
内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211(18)
函號	156 17

二百一十冊

八ノ巻 現共七



共



平性  
服部

南帝より拜領したる葉菊  
旌に改用す

記録御用所

葛原親王の苗裔平性傳射平

字清遠胤服部修賢号平宗純末孫始

宗清修賢子清部後知色位少孫

称服部氏

服部中

少年令

要助

保次

幼宗次

母  
書

初京都皇利將軍家仕職取所後戶侍等  
府に將軍家より給筆書付安

城別軍國に並白川口法美事如  
今村村一系に作月給等、所如  
之由所被 仰り也

六月旨

豊前守判  
沙 派 判

後部 介 受

新の所、後為侍兼近口藏田  
尾張守如、後、系取内所次等  
在侍中、等、長、後、各、の、令、地、乞  
る、頼、入、作、取、も、其、別、被、地、系  
抽、忠、意、も、保、り、為、津、州、村、長  
長、藤、考、り、也

七月廿八日 判

後部 介 受

不日可出溪系在年下以法状  
之而同时坊并该次号之事  
令馳乞押忍乞之乃为神妙  
行殊者及者之也

八月廿日御判

御判日名年

昭烈想飲職之事而目之  
之相遠少少存心之者之批  
之公也中事一行案據長

之也

十二月廿日御判

論達之級軍台新六條以来  
忠節之無以始働之有存心  
通お見振管政作室感候以  
恩賞主之球知之之者如  
殊長之也

九月廿日

御判

御判日名年

今度津城に於て本意を以て  
被取法陣より津忠節候御心  
津州迄は名分迄津内書  
南方英法に被取儀より御  
御意を以て之程常是取意  
賞の由より活の被取節  
る肝要なる津使に於て  
忠定治部少輔の程均すこと

尸由の如く候事

月十号 昭光判

後部要分々

今度よりこの新地地戦切討  
捕首殺す所被取儀より忠定  
忠定よりか療表事一肝要に  
和用より来たる忠定に神妙  
只今由ん考らん候事

江戸藤川公家御守書

正月廿一日 津判

後部舟より

今度遂に花城殿より藤川公  
比類いねり書賞西尾物集、花  
之内謙平當地より松高親  
和田を御存領知一系但書  
社並諸事公事古形除知り

老々々々年永石つり多お遺り  
活忠昂切当い自然松高  
調略以後より致月公し由  
むい様以祐阿う也

二月廿一日 津判

後部舟より

右書月廿一日致祐阿う也

永祿九年寅年八月廿九日

控現福上庄古村之庄古村二村費文控違  
及刑部村百費文今百沙控費文存飲  
伊賀之古古控人飲之天正四箇子年月日  
之知二十二人之添合古七控七人飲之合飲  
如每度控自之軍政古動法之同丁也年  
四月廿二日 行儀狀古古古

河判拘写

胎中完行知りか  
合百沙控費文

北門 百費文之遠刑部村  
沙控費文之冬古古村

右年未裁忠明後之今度控自  
新調助古控古村死之古古知りか  
息子古古古古古古古古古古古古  
安録刑部古古古古古古古古古古古古

之の式

天正五年正月一日

保改

天正五年二月後和泉保伊勢國通  
之長尾清正渡津之長尾信正領有津威  
之衆 保正之長尾信正村二十貫文之長  
刑部村百貫文之長尾信正之長尾信國  
首飾那之長尾村百貫文之長尾信國  
○天正五年正月一日

十席父子先四信正之長尾信正領有津威  
之衆 保正之長尾信正領有津威  
一樓父中之長尾信正領有津威  
天正五年二月一日病死之長尾信正  
長尾信正領有津威

保改 願中 初通九 三十席

保改

妻川推利初平長安



年八月日之然... 小世... 二十二年

世... 神... 法... 成... 後... 打...

乃... 獲... 身... 腰... 物... 之... 傷... 火... 保... 以... 之... 事...

○年... 月... 日... 之... 事... 者... ○年... 月... 日... 之... 事... 持... 國... 以...

○江... 戶... 吳... 服... 指... 初... 日... 封... 之... 事... 奉... 以... 初... ○

年... 月... 日... 之... 事... 在... 法... 院... 相... 任... 以... 出... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 任... 以... 之... 事...

推... 七... 人... 之... 事... 連... 之... 事... 連... 南... 内... 家... 之... 事... 東... 一... 社... 自... 有... 事...

○... 事... 向... 之... 事... 在... 之... 事... 法... 院... 押... 之... 事... 法... 院... 押... 之... 事... 中...

身... 人... 下... 之... 事... 初... 之... 事... 案... 之... 事... 法... 院... 一... 日... 押... 之... 事...

家... 之... 事... 東... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 長... 七... 十... 年... 一... 月... 日... 之... 事...

上... 法... 國... 吏... 濁... 郡... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事...

○年... 月... 日... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事...

法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事...

其... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事...

法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事...

法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事...

法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事... 法... 院... 之... 事...

乙巳年 西ノ路ニテ長年修業スル者有リ  
 勤王ノ年月日ヲ知ラズシテ下流ノ法ニ野ノ野  
 巡見ルニテ長年修業スル者有リ  
 而シテ心ヲ勤王ノ事ニシテ年々月々ノ心ヲ  
 上野ノ野ニテ國邊城守ノ人ニ求メテ  
 細井金之坊ニ申シ蒙リ修業スル者有リ  
 而シテ心ヲ勤王ノ事ニシテ年々月々ノ心ヲ  
 新田江守ノ人ニ求メテ修業スル者有リ  
 而シテ心ヲ勤王ノ事ニシテ年々月々ノ心ヲ

乙巳年 西ノ路ニテ長年修業スル者有リ  
 勤王ノ年月日ヲ知ラズシテ下流ノ法ニ野ノ野  
 巡見ルニテ長年修業スル者有リ  
 而シテ心ヲ勤王ノ事ニシテ年々月々ノ心ヲ  
 上野ノ野ニテ國邊城守ノ人ニ求メテ  
 細井金之坊ニ申シ蒙リ修業スル者有リ  
 而シテ心ヲ勤王ノ事ニシテ年々月々ノ心ヲ  
 新田江守ノ人ニ求メテ修業スル者有リ  
 而シテ心ヲ勤王ノ事ニシテ年々月々ノ心ヲ

日二丙辰年十一月廿日病死ハ種森某年日記云  
較テ揚湖名福寺系

右湖雲年之年月日ハ之知コト云較テ揚湖  
ハ揚湖名福寺系  
ハ揚湖名福寺系ハ揚湖名福寺系ハ揚湖名福寺系  
ハ揚湖名福寺系ハ揚湖名福寺系ハ揚湖名福寺系

保儀 胎初半在處

慶長二十一年月日ハ之知コト云較テ揚湖

程現存ハ江右名福寺系

保光 系

胎初十師

胎初十師ハ胎初十師ハ胎初十師ハ胎初十師  
胎初十師ハ胎初十師ハ胎初十師ハ胎初十師  
胎初十師ハ胎初十師ハ胎初十師ハ胎初十師

保俊

母川折刑初年長女

妻水野正師作清定女

兄守師討死ハ江右名福寺系

日記  
寛永十一年  
八月

寛永十一年八月二十日  
石甲巨麻郡  
合口百石古石合三石  
年六月  
熊村  
石甲巨麻郡  
合口百石古石合三石  
年六月  
熊村  
石甲巨麻郡  
合口百石古石合三石

所上  
安  
官所

保久  
昭

知  
名  
石



年牛之四の由今年初の年以て之  
思ふ所の由の天和之念其年二月終病死  
歿之由を云々

胎初 中 初之辰 経江 倉庫

保房

母 長谷川久之節之孫女

妻 永井傳八節尚照女

延享七年十月九日初白 清目人の天和  
二年七月晦日家智山寺法の自念也

丁卯年八月の初小菅信人長福ははは月二十日  
初の元福之庚午年八月の初小菅信人長  
福は元年卯年と初の享保二年丁酉年  
八月十日臨終の門は是年十月二十日病死歳  
之由を云々

保貞 胎初 大和 幼久公節 中

保貞

始保房

胎初 永存 致休

妻 永井傳八節尚照女

妻 永井傳八節尚照女

保房

年八月廿九日... 享保二年閏年六月廿六日...  
 曾少書信の月年九月廿八日... 津國の...  
 年六月廿六日... 享保三年八月廿八日...  
 主簿の... 享保三年八月廿八日...  
 日六... 享保三年八月廿八日...  
 閏年十月十二日... 享保三年十月廿二日...  
 九月廿九日... 享保三年九月廿九日...  
 十兩... 享保三年十月廿八日...  
 市... 享保三年七月廿七日...

江戸... 享保三年...  
 八月十八日... 享保三年八月十八日...  
 九月廿七日... 享保三年九月廿七日...  
 十月十六日... 享保三年十月十六日...  
 十一月廿五日... 享保三年十一月廿五日...  
 十二月... 享保三年十二月...  
 享保三年... 享保三年...  
 享保三年... 享保三年...

江戸... 享保三年...  
 六月... 享保三年...  
 七月... 享保三年...  
 八月... 享保三年...  
 九月... 享保三年...

享保三年... 享保三年...  
 享保三年... 享保三年...  
 享保三年... 享保三年...

之江波体之月八戌寅年七月廿日病死六十  
二歳以守葬

保高 昭約之午郎 終中

妻水師河内守忠高女

年八月廿日病死六十

昭中 昭高之弟 昭高

保弘

昭高之弟

養母 家女

實母 依之半江島守定女

妻 高之弟 昭高之弟

昭高之弟 昭高之弟 昭高之弟

昭高之弟 昭高之弟 昭高之弟

昭高之弟 昭高之弟 昭高之弟

昭高之弟 昭高之弟 昭高之弟

昭高之弟 昭高之弟 昭高之弟

昭高之弟 昭高之弟 昭高之弟

昭高之弟 昭高之弟 昭高之弟



保宜

言腹中 胎中 幼順名 子殿

養母之末之正心正傳女  
其母家女

其母家女

言曆之年九月廿九日  
年九月廿九日 養子之室曆十月廿九日 丙申年九月

十六日 家督之室公同 丙申年九月廿九日 養子之室

丙申年九月廿九日 養子之室 丙申年九月廿九日 養子之室

丙申年九月廿九日 養子之室 丙申年九月廿九日 養子之室

保善

言腹中 胎中

幼順名

其母家女

其母家女

其母家女



天保十一年十一月廿二日

本助金所 康佐の事 康佐は父病に任じ  
伯父高合に子次を承継すに由り父福  
元治元年二月

右徳尾村に在りし 康佐は陣亡すに由り  
此後其子 康佐の事 康佐は父病に任じ  
伯父高合に子次を承継すに由り父福  
元治元年二月

長久保成徳有茂系より一河に在りし  
是山に在りし成徳は此の徳尾に在りし陣亡す  
後其子 康佐の事 康佐は父病に任じ  
伯父高合に子次を承継すに由り父福  
元治元年二月



二月一日大嘗會の元祿十一年庚辰年十一月の如く父  
御堂の病氣有場子孫御堂の如く父より御堂の  
檢定七年余深曾孫御堂の如く父より御堂の如く  
御堂の如く父より御堂の如く父より御堂の如く

服部助吉 幼助の節

改行

母指環文半在邊の系女

妻大友直房系女

天和之冬亥年十一月廿七日御堂の如く父より御堂の如く

御堂の如く父より御堂の如く父より御堂の如く  
御堂の如く父より御堂の如く父より御堂の如く  
御堂の如く父より御堂の如く父より御堂の如く  
御堂の如く父より御堂の如く父より御堂の如く

服部伊左衛門

正秀

百五石石分公年以の御堂の如く父より御堂の如く  
御堂の如く父より御堂の如く父より御堂の如く

改行

服部吉十郎

正吉

母 大谷直房之妻

書 之

元禄十一年庚辰年十二月九日家督出賣信(享  
保八癸卯年九月十一日病死歿之信(享保八年己  
酉昌院之葬

半人  
其性如松尾の如き者

改信

卷母

實母 大谷直房之妻

書 之

享保八癸卯年十二月九日家督出賣信  
〇月九日辰年八月十一日甲府勤政同年九月  
十八日病 沖月九日寛延三年八月十日  
病死信之妻甲府西宮沼所法橋守之葬

改考

昭政令之節

母 家女

書 之

寛延三年八月十一日家督切少之信(享保八  
〇

言三百冊花七斗余

十斗

昭政令女

甲府勤政

宝曆三年春二月八日甲府勤政の御紀元  
甲申年六月下旬至七月日 河内府勤政  
河内府勤政元年九月至十月甲府勤政元年

昭徳の御

政宝

寛政三年六月朔甲府勤政

政徳

昭徳の御

女子

昭徳の御 恭毅妻

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

寛政三年六月朔甲府勤政の御紀元  
甲申年六月下旬至七月日 河内府勤政  
河内府勤政元年九月至十月甲府勤政元年

昭徳

昭徳

昭徳の御 昭徳の御

昭徳

昭徳の御

昭徳

昭徳の御 昭徳の御

昭徳の御 昭徳の御

昭徳の御 昭徳の御

昭徳の御 昭徳の御

昭徳の御 昭徳の御

武官任公居七年余... 宣和二年十月  
 廿一日... 宣和二年十月廿七日  
 宣和二年十月廿七日... 宣和二年十月廿七日  
 宣和二年十月廿七日... 宣和二年十月廿七日

政康 泰  
 大の奴  
 宣和二年十月廿七日  
 宣和二年十月廿七日  
 宣和二年十月廿七日

女母 柳京八之信成女  
 女母 宣和二年十月廿七日  
 妻 宣和二年十月廿七日

宣和二年十月廿七日... 宣和二年十月廿七日  
 宣和二年十月廿七日... 宣和二年十月廿七日  
 宣和二年十月廿七日... 宣和二年十月廿七日



政考  
分知  
身

政行  
昭如  
昭如

政考  
昭如  
昭如

母  
妻  
元  
有  
半  
治  
若  
以  
推

收后

收后助在焉

享保五癸卯年三月七日卯家股在平部

收后助在焉

收后助在焉

泰久

病身之曾生准尼女

收后助在焉 卯年

泰通

母家女

年妻

高田右左衛門右衛門

享保五丙辰年四月廿七日之國之助之延享

元享五年八月廿七日之國之助之延享

九月廿七日之國之助之延享

十月廿七日之國之助之延享

十一月廿七日之國之助之延享

四月



宣政元年六月二十九年壬子日壬午  
 丙子壬子壬子



平姓  
 胎兒

胎兒  
 胎兒  
 胎兒

胎兒

政治

遠江國

右江國  
 右江國  
 右江國

元和元年四月七日、大宰守忠房、  
於此、遂と公と、均因、  
陣、  
康、  
永、  
わ、  
器、  
乃、  
在、  
系

昭如堂之師

父、  
父、

系

昭如堂十師

年、

系

昭如堂書院

昭如堂、

病、

昭如堂、

系

出姓因田信房子孫傳知は首名  
が似て知は廣父病死は長頼金印子  
名を伝知

### 服部知房

### 伝成

弟に伝成は

母に後春江島田次女

書川口久仙宗次女

年八月の不知小姓伝はは長頼切替の首領

寛文十九年八月父病死は長頼金印子

高田寺証書に案の内事七十百石と記述あり  
子名百石長頼の事知は長頼同姓長頼  
別書に長頼の長頼は長頼知は長頼は  
取事書に長頼の事知は長頼の事知は長頼  
長頼の事知は長頼の事知は長頼の事知は  
長頼の事知は長頼の事知は長頼の事知は  
長頼の事知は長頼の事知は長頼の事知は  
長頼の事知は長頼の事知は長頼の事知は  
長頼の事知は長頼の事知は長頼の事知は  
長頼の事知は長頼の事知は長頼の事知は  
長頼の事知は長頼の事知は長頼の事知は  
長頼の事知は長頼の事知は長頼の事知は  
長頼の事知は長頼の事知は長頼の事知は  
長頼の事知は長頼の事知は長頼の事知は

信解 昭如禮女  
父守子守名内子守名右位守名守名

昭如禮女

信親

母 川口久助宗次女

素行江原系江原利智女

天和二年六月廿九日  
天和二年六月廿九日  
天和二年六月廿九日  
天和二年六月廿九日  
天和二年六月廿九日  
天和二年六月廿九日  
天和二年六月廿九日  
天和二年六月廿九日  
天和二年六月廿九日  
天和二年六月廿九日

知日守孫

昭如禮女

昭如禮女

昭政

母 昭如禮女

昭如禮女

享保七年十二月廿七日  
享保七年十二月廿七日  
享保七年十二月廿七日  
享保七年十二月廿七日  
享保七年十二月廿七日  
享保七年十二月廿七日  
享保七年十二月廿七日  
享保七年十二月廿七日  
享保七年十二月廿七日  
享保七年十二月廿七日

○同日甲戌年十二月十四日 徳信の母和太成子年  
八月廿九日 病死七歳と云ふは以て尋常

任隆

腹妊植来史

正徳三年七月廿九日 永徳江  
徳信の母和太成子

弘田

月田之字所

寛保二年十二月廿一日 永徳江  
弘田の母和太成子

信次

腹妊植来史

弘田

母家女  
赤坂宗家江信次之禪女

寛曆己丑年十二月十日 家督出立書信の母  
乙亥年二月廿六日 永徳江の母 乙亥年二月  
廿九日 西凡初の母 乙亥年八月廿一日 初の母 乙亥  
乙亥年十二月廿一日 病死 少書信の母 水六丁酉  
年四月十日 徳信の母 乙亥年四月十日 信  
病死 徳信の母 乙亥年四月十日 信



女子 昭和三十二年九月廿五日

女子 昭和三十二年九月廿五日

幸成 昭和三十二年九月廿五日

昭和三十二年九月廿五日  
昭和三十二年九月廿五日  
昭和三十二年九月廿五日

昭和三十二年九月廿五日  
昭和三十二年九月廿五日  
昭和三十二年九月廿五日

女子三人 昭和三十二年九月廿五日  
昭和三十二年九月廿五日  
昭和三十二年九月廿五日

佐英 昭和三十二年九月廿五日



○兼德之甲午年十一月八日病死於後七歲曰岩  
而也守蘇

保秀 二宮 昭如一亥又 幼年十師

母家女

兼德之甲午年  
○方治二巳亥年以之昭如性從○延元九年國年  
九月二日病死於後七歲曰岩而也守蘇

保昌 昭如二師之場 幼年十師

母家女

天和元年十二月廿三日  
○寬保二癸亥年十二月九日病死於後七歲曰岩而也守蘇  
十二月廿二日昭如性從○年八月廿九日病死於後七歲曰岩而也守蘇

保教 昭如性從○年八月廿九日病死於後七歲曰岩而也守蘇

養母 服部平右保好女

実母 家女

妻 服部之海之孫保昌女

享保己亥年七月十二日尊長子内子庚戌年  
八月十九日亮平書院書切保之富後三月乙卯年  
八月五日病死之孫歲日守葬

女子或 老女子保教妻  
経年 大活字屋門長澄妻

保尚 服部平十郎  
嫡孫兼孫

保孝 服部正吉

以和八年卯年二月十六日見保尚長子歳  
寛政元乙卯年四月廿日病死之孫六歳月  
守葬

嫡孫兼孫  
服部平十郎 初市十郎

保尚

母 服部之海之孫保昌女

書之載

高之百法

享保二十乙卯年九月廿二日嫡孫兼孫内子保

三套亥年十一月廿九日家督小督信之重延之根  
年四月廿七日書院表の事水定亥年三月廿九日  
八月病免小督清宣及七年七月廿九日就仕

亥年平之忠親及三男

深宣 介次郎 一郎左衛門

宣及亥年十二月九日年亥年七月廿九日  
亥年八月廿六日年亥年六月二十日年亥年



平姓 膳部

葛原親王之高尚海平之清平家清  
後胤伊賀國仁人膳部伊賀守平宗純  
末孫膳部中保以次男

膳部之平男

保人 母 妻

保高 二階 服部七三坊 見

母 不知  
妻 小栗仁佐馬の信清女

延宝三之卯年七月十日保久親重色知公武  
百石保子と下書後同日、戊午年二月  
廿九日十八人組の自筆の旨寅年十二月十九日  
物方の之取十一度辰年十月六日新田書の家永  
八年卯年二月八日病死小書清の享年保十一  
年八月十日病死七拾歳麻布谷所湖守

蘇

服部長次郎 源兵衛次

保号

母 小栗仁佐馬の信清女

妻 不知  
服部長女 其の居る所

宝永六己丑年四月六日新田色知公武の享年  
保十一兩年二月八日小令彦麻將出法の日年  
十一月二日家督の日十二丁未年四月十日新田書  
〇月十二日申年四月十日元 出祐系出法〇

寛保三年七月六日病歿小童清合延享四  
丁卯年二月十六日病歿○寛延四年三月  
十二日病歿○延享七年四月廿五日病歿

保時 胎前所生

母 堀尾長女  
妻 同宮市右衛門信豊女

延享四年卯年二月十六日家信小童清合の母  
寛保三年六月廿七日大田重○寛保二年

七月七日日組参り○同年七月日之松左衛門  
美○大田八中申年二月廿七日病歿○延享  
四年五月

胎前所生 初生所

保願 母 同宮市右衛門信豊女  
妻 和国二郎左衛門持澄女  
天保二年寅年二月十日病歿

○月戊申年一月八日家督少重法○月年  
十二月廿二日少重法一統 四日見○月分女大

少重法及四年三月五日 吹上太の時辰三日六年  
九月廿五日 細例上院之る物二

昌保 新江系伝者

天保二乙亥年十二月廿八日少重法  
羽家系伝者而昌年伝者

養女 実大書 母在任在る時感以女  
少重法及四年三月五日 吹上太の時辰三日六年

女子二人 少重法  
新江系伝者而昌年伝者  
右系伝者而昌年伝者

保秀 脂分伝者



*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



平姓  
昭部

昭部石見守保長末孫

昭部全之丞

保知

天正十年伊賀越前守保長末孫  
伊賀の白子より伊賀守を力に  
しるはるる屋敷にありしに  
札取の陣に死す御成金

同子年山田京降  
 年君列之  
 冥冥の  
 此

保部令

保部令

保部

保部

保部令

大敵  
 保部令

史記の如く相飲りしこと可なり  
りし。

大敵は後醍醐天皇の品を慕う送の村

沖積の地依りて元禄十一年九月九日死

七拾二歳没す。可憐也。年壽

保好

賤孫の如く カ 南次

寛文九年 表訪りし元禄九年

十二月廿日 只末初の日 年七月廿日

大奥の日 七年二月廿日 没所 時夜

二日月二日 東叢如秋まきく百文

様儀の御 カ カ 科百文

りしは定海初日 カ 沖田全吉 年壽

の字 カ 元禄十一年

七月七日 死日 年壽

保心

後保心 カ 老幼 年壽

之保十二年二月廿七日卯時  
 年九月廿七日卯時  
 有月廿七日卯時  
 之保十二年十二月廿七日卯時  
 物多引の保十二年十月七日卯時  
 元令或取の保十二年七月廿七日卯時  
 七柱の保十二年卯時

保考

保考考考考

保考

寛政二年十二月十八日表の保考。  
 十月十日表の保考。  
 十月十日表の保考。

保負

保負保負保負

保負保負保負

保負保負保負保負保負保負  
 保負保負保負保負保負保負  
 保負保負保負保負保負保負

孝公十八年九月廿五日  
御前上御入及物部 甲辛辛月廿五日

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

平姓  
昭部

江户幕府御前宗清後胤昭部昭部  
宗純宗源昭部中保昭部昭部

保政

母 妻 子 女

古酒庄原氏慶長四年丙申美上京乱行  
西宮路以谷向之御前伊賀者七指之人



保久

三男  
實格  
昭徳之長男 幼少命

母 多之か

右保久係出度長之系指古来より清和性多か  
之故平姓也寛永十年自年二月也無之  
此百石お後玉大位郎内田重村より承り年  
月より多か大位郎の年八月より多か  
西室より卯年五月お後玉大位郎の系  
穀と務御を承り

保長

昭徳七弟長男

母 多之か

寛永十八年己年八月より多か大位郎の寛文元年己  
年十月より多か新米の年八月より多か昭徳の系  
清の元禄十三年己年五月より多か昭徳の系  
地月か  
保久  
昭徳七弟長男

父名是也 越前守 保守 母 一揚武物系女  
正室云々 享和二年七月廿九日 地ノ年八月ノ廿九日 大正  
ノ年九月ノ廿九日 新皇 今大正 七  
七 坊社

保守 母 一揚武物系女

母 一揚武物系女  
享和二年七月廿九日 地ノ年八月ノ廿九日 大正  
ノ年九月ノ廿九日 新皇 今大正 七  
七 坊社

保守 母 一揚武物系女

保守 母 一揚武物系女

母 一揚武物系女  
享和二年七月廿九日 地ノ年八月ノ廿九日 大正  
ノ年九月ノ廿九日 新皇 今大正 七  
七 坊社



人の門年十二月五日有衣の何と云は義也其年  
以下は延享元年甲子年六月二十日百八年中四度  
用金五動の月江流九山室多分人との水取  
岸多し 河内中津入 土境の山長村の  
中法園寺重助長此村山新田宗發と此法  
重助一村一圓金と宗發と文と宗發と  
此法新田宗發と此法宗發と分長身分知多江流  
山側山室宗發と分長身分知多江流と此法  
と此法宗發と書月長法成り  
百津流取利九と分入と長身分知多江流と分長  
身分知多江流と分長身分知多江流と分長

人の門年延享元年七月十日の用人の長身分知  
室曆一王中年九月十日西尾屋發用人の  
日江守成身一十月十日

河内中津川用人の門の長身分知元年六月十日京級法  
の門六西子年十月十日二尾屋と此の門一十年  
七月十日病死の長身分知元年江麻布湖と分長身

保宗 昭如之法  
病身分知之法

天保七年  
八月廿五日  
八月廿五日

保服

服部家三郎

母 服部家三郎之妻

妻 服部家三郎之妻

天保二年二月廿五日

天保二年二月廿八日

天保七年十月下病

女子三人

根来流三郎長之妻

尾形列

保春

服部家三郎 初代

母 服部家三郎之妻

妻 三郎

三郎

天保七年十二月廿九日

天保七年二月廿五日

天保七年十月十日

孝子二人

平野伯直  
男左大臣右大臣右大臣  
實名不明  
源氏平野伯直

保定

源氏平野



平姓

源部

平親王右門左大臣平右衛門右衛門  
源氏平野右衛門家長子源源部

平親王將負直

源氏平野  
源氏平野

負直

母  
書  
平野

伊賀國成之者自任所多の一族に俣也  
山城國守法田京心中信右は其自任所多國  
津和野自任所多法田京心中信右は其自任所多國  
○天正十五年二月一日織田信長將軍御書に依り  
以智光寺よりわすし書付

恒程極象の縁ゆゑに法田 津和野の自任所多  
田京心中 通所は別野武士と云ふ傳記に依り  
杜田用公の自任所多は乃乃乃乃乃自任所多

伊賀守心中田京内之は乃乃乃乃乃清一之族  
家人等相傳心中之御武士を巡拂はるに依り  
津法江の自任所多は乃乃乃乃乃自任所多  
伊賀守新持は乃乃乃乃乃自任所多  
之後遠良津松は乃乃乃乃乃自任所多  
伊賀守公江の自任所多 津和野之御武士國之自任所多  
世田谷の自任所多 乃乃乃乃乃自任所多  
年之秋關ヶ原の陣に依り廣長七之當年

四月廿二日於山城國依人病死七拾歲依人龜  
院壽

胎前之書

自富

母 少知

妻 右田屋左衛門系女

慶長六年子年關東津之長初生

植根極上之海通而此世の正月廿七日

乙未年

之知常陸國新張郡内大具村作能面村

二言但作石下父達取云云首石下下妻

右佐佐木極上之海通大田番大田屋左衛門之長

○寛永十二年甲戌年

大敵院極上之海通之長首根四歳五番信年

○同十九年壬午年一月廿二日病死七拾歳依人

九上酉年二月廿九日病死七拾歳依人

而内室長壽寺世田谷系作村西福年

更清

贈清古也

永井信清子尚政と清古は清地足利に知一  
正長は清一之長子也清古尚清子尚政  
尚清は信清の孫也

服部備後守 池久次郎 久吉

貞常

初貞貫

母 左田左兵衛の妻女

妻 加々見左兵衛の妻女

元和八壬戌年八月廿八日 初貞貫の妻女

寛永十癸酉年八月廿八日 初貞貫の妻女

慶安之戊子年 八月廿八日 初貞貫の妻女

蒙 上之妻女 寛永十癸酉年八月廿八日 初貞貫の妻女

同年二月廿九日 初貞貫の妻女

同年二月廿九日 初貞貫の妻女

同年二月廿九日 初貞貫の妻女

同年二月廿九日 初貞貫の妻女

正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野

河内郡 内森村 大倉村 山田村 山田村  
地味 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不  
十二月 十二月 十二月 十二月 十二月 十二月 十二月 十二月 十二月 十二月  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野  
正徳二年正月九日 津和野 津和野 津和野

應令并大綱之屬分備好子 物行在江陰  
○月年正月江陰向江陰之九月十五日  
據中不西海之好紙物江陰向十月五日 西見  
○月日甲辰年正月之好紙物江陰向十月  
年閏六月十九日 據中不西海之好紙物江陰向十月  
年閏六月十九日 據中不西海之好紙物江陰向十月  
今日及西之系關白敏四半書字以成  
乙方係二條殿所連判之據中不西海之好紙物江陰向十月  
江陰向十月年六月二十日 光自得紙物江陰向十月

江陰向十月年六月二十日 光自得紙物江陰向十月  
九月 江陰向十月年六月二十日 光自得紙物江陰向十月  
載只於之西條殿所連判之據中不西海之好紙物江陰向十月  
物中不西海之好紙物江陰向十月年十月二十日 光自得紙物江陰向十月  
乙方係二條殿所連判之據中不西海之好紙物江陰向十月  
七月 西見江陰向十月年六月二十日 光自得紙物江陰向十月  
年正月 西見江陰向十月年六月二十日 光自得紙物江陰向十月  
○月年正月 西見江陰向十月年六月二十日 光自得紙物江陰向十月



因共二百餘府因共八百四員見の同八戌申の  
二月十日は所々係同一年二月十日事迄の同九年  
年正月九日事迄の同九年二月十日事迄の同九年  
日 清國見の同九年七月十日事迄の同九年  
員富事来い知の不自常事来い知の不自  
お多し口言をり或は多し口言をり或は  
下且員常と之れ内相見城亦村見百石と  
以能事来い知の同九年七月十日事迄の同九年  
知日也所日七七日事迄の同九年七月十日事迄の同九年

同九年日 常入内用城の同九年七月十日事迄の同九年  
口指お知の同九年七月十日事迄の同九年七月十日事迄の同九年  
同九年日 清國見の同九年七月十日事迄の同九年七月十日事迄の同九年  
或は世田の谷の事来い知の同九年七月十日事迄の同九年七月十日事迄の同九年  
知の事来い知の同九年七月十日事迄の同九年七月十日事迄の同九年七月十日事迄の同九年  
同九年日 清國見の同九年七月十日事迄の同九年七月十日事迄の同九年七月十日事迄の同九年  
同九年日 清國見の同九年七月十日事迄の同九年七月十日事迄の同九年七月十日事迄の同九年  
同九年日 清國見の同九年七月十日事迄の同九年七月十日事迄の同九年七月十日事迄の同九年  
同九年日 清國見の同九年七月十日事迄の同九年七月十日事迄の同九年七月十日事迄の同九年

清感之方以年之頃我之延室之元重也年  
十二月廿六日病氣自起臥之會為自法以系  
於法及後經如海延室二年庚午二月廿六日  
夜至先死也自常病氣性之歲以行  
重經兩地臥自法以十二月廿六日  
日年百江戸延室二月廿六日 清月八日  
清前之くはる 林書院中書  
清年次自常病氣之事と云はる

之年蒙 乙亥の月廿九日老死  
乙亥の月廿九日自法及後延室之方席  
系例也 清月八日江戸延室八月廿六日  
乙亥 清月八日延室之方席  
延室之方席在江戸延室自法以  
日百廿二日又古方自法以  
之百法延室在料 自常以上下の月乙巳年  
八月廿六日病死七拾二歳日守葬

貞良 勝経  
水并日向子延室之方席

貞世

昭和天皇亮 功 左大臣

孝和天皇御幼少之時

常書院御幼少之時 昭和天皇御幼少之時

左大臣貞世

滿英

春日佐大臣

昭和天皇御幼少之時

春日佐大臣

貞法

昭和天皇御幼少之時

母 加賀守貞法之女

妻 阿蘇守貞法之女

貞保 貞和元年二月廿二日 神皇正統記

年二月廿二日 神皇正統記

二月廿二日 神皇正統記

其日父貞法御幼少之時

貞保 貞和元年二月廿二日



六日發是日九月戌刻別送行由是日約解  
之別送行因情之去公旅解

寂無從極亦死骸見分信區別發是日午  
時府知事於同日九月廿五日皇朝由是日  
切事之知同日九月廿五日皇朝由是日  
此之知事同日九月廿五日皇朝由是日  
自法伊候紙之長思長候也此有在書者  
乙卯之元祿之庚午年八月廿五日皇朝  
日庚午年十月廿五日皇朝由是日  
欠祿病身之切事是日九月廿五日皇朝

常春地候年秋之知事之知事  
日七甲戌年七月廿五日病死之知事

貞豐 贈給文太馬

慶安の年卯年七月八日初日 清目見合高  
二乙亥年六月廿五日大書者新紙之知事  
ら知事の寛文元年五月廿五日切事  
儀の之候は知事の知事  
年亥年八月廿五日内或は在京郡下村常例

新羅郡三村村公口百石地年賦少知延慶  
三年年有六日之業在香花之口以以年  
右香佐初而常年祖

女子 得者 大國忠臣思方妻

貞祐 昭次之三師

延寶九年閏年二月有初日 沖月九日大和

三亥亥年九月有初日 新羅切來之百石  
以下永性但之元福之全商年二月有初日  
以初年之元福之全商年二月有初日  
日寺

常方 昭次之右馬門 沖年帝 久右師 昭次之師

母 沖月有初日 公定女  
大國忠  
妻 忠臣之元福之全商年

天和二年戌年三月有 沖月九日之元福之全商



予の用海月より約一日二角半二月分  
程の月二角半二月分西各海の月二角半  
年六月父の遺徳に於て國是樂郡江村日  
向村の石に傷余の用海月より約一日二角半  
國是樂郡江村日向村の石に傷余の用海月より約一日二角半  
八月頃戴の月二角半二角半先公八月  
辛卯年二月分より海月の辛卯年七月分  
八月病死後六歳月守身

貞仲

服於九千帛

之福七甲戌年正月二日首在分地指在の  
郡月山田村より分今之分山田村  
貞明社

女子

心向子指由  
右堂指之海貞明社

貞殷

功貞利

長母是月山田村盛清女



室母 江戶市市席某女

妻 在堂 勝之 尚書明女

室母 戊子年七月十日有老子の貞殿決矣  
父腹取在席自其方其女名室母元軒  
年十二月有 淨目凡門六七廿年三月有  
より月並少し其江の月八廿年四月有自家  
智小重信の室母之戊戌年二月六日小信  
二月八廿年八月十日病死之後八年日有

昭初之吉也 初孫母

貞則

母 在堂 勝之 尚書明女

妻 在堂 勝之 尚書明女

室母 八廿年十月九日室母小重信の父  
二十七年十二月十日室母小重信の母  
九月十日室母小重信の父

女曰

五德侯 嘉祥元年四月十二日 院山書院

○室曆二壬申年二月廿一日 院山書院

元甲申年三月廿一日 院山書院

以守其葬

西宮書院

任家之庫忠衛妻

女子人

院山書院 忠衛妻

貞德

院山書院 院山書院

母 院山書院 院山書院

妻 院山書院 院山書院

院山書院 院山書院

女子曰 院山書院

院山書院

院山書院 院山書院

院山書院 院山書院

四月日光 河津系也法流多住坂丹波国八上  
光元五年城是概止常法公海麻鹿北山官旨  
是概 河津役学也住概北山日光表旨  
池身少鹿云山一之百 延河之公法  
法海府法公天原二官年十二月十二日申表  
宣及七年二月廿九日卒也其死日八年七月廿九  
卒之葬本日寺

貞園 贈河津公

西和九主在年六月廿六日山普信

贈河津公 貞園公之子也成南附元子  
貞園公贈河津公貞明公書云

貞心 贈河津公

貞心公 西和六年三月之山普信贈部  
貞心公貞清公之子

貞明 贈河津公

西和六年正月十日山普信贈部  
貞明公貞園公之子

女子 加方宮之別傳書

昭仁天皇

賴母 崇德天皇

貞勝

妻 崇德天皇 德和天皇 明德女

何如也

天曆六年二月五日

河内府人 宣政三年春

系

昭仁天皇

其子 崇德天皇 二年二月五日 崇德天皇 宣政三年九月十日

系

昭仁天皇

其子 崇德天皇 二年二月五日 崇德天皇 宣政三年九月十日

系

昭仁天皇

其子 崇德天皇 二年二月五日

初 崇德天皇 二年二月五日

平姓 昭部

伊賀守内膳部家系

貞常

昭仁天皇 二年二月五日

初 貞母

母 左大臣 清政女

妻 加賀守 女 清政女

元和八年 昭仁天皇 二年二月五日





女子 江田 大島石田師忠子妻

服初又右馬 初又二席

貞徳

母 弓矢左衛門信成女

妻 大島石田真次女

天保二丁亥年七月十一日家督小普信の之儀之  
成寛元年七月八日之儀年台屋承成百儀地方  
山門南門 南門新形武蔵久松信成を村長に任ぜ給事行日之儀  
郡之方村給合二百石之儀之儀大島石田真次女を嫁に給事

山門南門 南門新形武蔵久松信成を村長に任ぜ給事行日之儀  
郡之方村給合二百石之儀之儀大島石田真次女を嫁に給事  
大島石田家承元甲申年九月八日病歿之儀を以て  
江戸年也之由法橋寺葬

服初家女

常敷

母 大島石田真次女

妻 服初九千兩 貞徳女

寛永九年甲申年二月二十日家督小普信の儀  
江戸年也之由法橋寺葬





丹波國丹波郡・丹波・丹波  
自見の山に於て  
美濃守青澤元重公の命に依りて  
年七月廿日病歿七十五歳

常滿 腹納又三浦 初又右 能く座

寛應二壬申年二月廿七日  
此後より三月廿七日  
早稲口寺  
入道外年十月廿日病歿七十五歳

正常 大所傳任所 初又三浦 在名 源三郎

寛應八戊寅年二月廿七日  
源三郎 正常の子

常清 腹納松次郎 子也

腹納文彦 初又三浦 在名 源三郎

常明

母 腹納松次郎 正常女

正常妻

以和八辛卯年二月廿日病歿七十五歳

十月廿日家督出常侍の月十九日其の御自出礼  
の月廿申年八月廿日御自出の月廿日御自出年  
の月廿日御自出の月廿日御自出年

常侍 大是清政の忠直妻

常侍 大是清政の忠直妻

常侍 大是清政の忠直妻

常侍

妻中根権の御自出之女

常侍 大是清政の忠直妻

常侍 大是清政の忠直妻

常侍 大是清政の忠直妻

常侍 大是清政の忠直妻

貞園

常侍 大是清政の忠直妻



〇

平姓

脂部

伊族之脂部之平姓之門之先平九郎  
抄記之脂部伊族之平姓之門之先平九郎  
脂部之平姓之門之先平九郎

脂部之平姓

貞富

母之知

右記

書右面表紙之平姓之門之先平九郎

元皇太極子年冥冥以陣亡其部臣臣等  
程程孫上公臣海公初亦依法以之其後  
國新造郡之內有具村也其村之民也  
指在平廣長七十五箇年四月分以病死法有  
右依知法之部令之曰百石之部下  
右依知法之部令之曰百石之部下  
右依知法之部令之曰百石之部下  
○同十九壬午年一月之病死也其部令之曰百石之部下

寛文九年酉年二月九日病死其部令之曰百石之部下  
其部令之曰百石之部下  
其部令之曰百石之部下  
其部令之曰百石之部下

貞世  
昭初大臣亮 初令之部 後之部

母 右大臣左大臣之孫女  
書 東山而之傳也其女  
別格 其部令之曰百石之部下

常意院極力也

常意院極力也 此往向より為所の事は安に辛卯年

二九平社にの事無之に辰年一月の事也

○定家大丁巳年神田殿より物有りの元徳に

辛未年十二月二日叙爵は以て同日十五午七月日

若免流極は之を了り即ち百石位に之百石位に同日大嘗

年四月九日病歿は後之を承継す所極厚に後

貞直

贈於后之御 全之御

初市吏

母 孝心市三坊盛治女

書 茂家市所日未女

寛文九己酉年二月七日 神田のり同日一年亥年

二月廿五日於神田 神田殿に於て同日大嘗初

末也百石位の延宝元年正月七日奉祀小姓

○同日二月廿五日潮之末村○同日八庚申年六月

廿七日

源徳院極力也 大和之亥亥年正月廿八日

養正元年九月廿一日 養正元年正月廿八日

青果書院書の元禄二乙酉年十月廿二日初と名の  
番の四甲月乙酉宗納の日の庚午年一月乙酉  
申亥書者の日丁酉年七月乙酉降格乙酉乙酉  
年十月乙酉病死乙酉宗納乙酉乙酉

貞彰 昭如乙酉乙酉

年八月乙酉神田乙酉宗納乙酉乙酉乙酉  
乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉

女子 乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉

貞行 乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉  
貞殷 乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉

年八月乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉

貞陳 乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉

母 乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉  
書 乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉

室取乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉  
乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉  
乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉  
乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉乙酉



○享保九年辰年十一月九日合者、因今又庚戌年  
四月多知新由敷の元文三戌年二月十八日病  
死當時腹部に産糸社

酒井社藏家

女子三人

院合人多人  
別所人(重)首長妻

類貞

類貞

胎初大信 功令之節

功類貞

寛延之庚午年十二月廿日初産後、以右の如く社  
細切赤之旨屋の宝曆二年十二月十一日又

小菅傳入先祖は江村の長 沖國丸を志す  
二月酉年三月廿日也、四月十一日之産、七年七月  
六日病死之程、宗門に寺を築

貞信

馬孫義社

胎初大信

貞友

胎初大信 功徳出節

板倉家傳、女子才尼、分るに在、板倉市也  
後春名女子、其成、元文三年十月、新塚

女子

大坂町  
細井安藤、其子、胎初妻 注難列



女子  
板倉橋守子屋分  
板倉市之患賜多妻

貞清  
賜多妻  
昭如店之帝 幼中者

母  
長女川平帝 長女

寶曆十三 壬寅年七月廿日父病死信右同年

八月十七日病死信右同年八月廿日

昭如店之帝 昭如店之帝 昭如店之帝

某口寺之帝

貞心  
昭如店之帝 初 新之帝

長女  
實母 家女  
上京内記之長女  
高九百石指儀

昭如店之帝 壬寅年十二月廿日父病死信右同年  
八月十七日病死信右同年八月廿日  
昭如店之帝 昭如店之帝 昭如店之帝

日吉年三月廿六日申羅中用名...

貞義 胎部信左衛門

系 胎部信左衛門

女子一人

年姓

胎部

伊賀系内...

胎部源左衛門

保心

書 母 不知

檀程和... 伊之系... 武田...

保成

保成

保成源三清 功甚多矣

母 多之知

指現保上以名首治父指保名名三藏後下以仁  
外方心十二甲申年七月終津川右具橋三益  
前年子而捐流以屋及警以保西政之節  
與之而心付死之指保名年葬地之知

保次

保次源三清

保次源三清

保盛

保盛源三清

母 多之知  
保盛源三清  
向并保三又素女

指現保上以名首治父指保名名三藏後下以仁

保定 母 向井左衛門某女  
 書 源氏物語 保定女  
 源氏物語 保定女  
 保定 母 向井左衛門某女  
 書 源氏物語 保定女  
 源氏物語 保定女

保定  
 母 向井左衛門某女  
 書 源氏物語 保定女  
 源氏物語 保定女  
 保定 母 向井左衛門某女  
 書 源氏物語 保定女  
 源氏物語 保定女

貞享三年閏九月廿二日病歿于御所  
戸部谷内通年壽  
○保定初申之病歿於御所之儀  
此上保定初申之病歿年未始於御所

保正

賄部安重 功十度

初保京

相 後保正之儀保正女

書 初五年七月保正女

保正 貞享三年閏九月廿二日病歿于御所

寬文三年卯年十一月廿九日 御所

年十一月九日 御所

延享元年壬午年十一月廿九日 御所

二年寅年十一月廿九日 御所

九月廿九日 御所

其日病歿于御所

保長 加三九度

年月分少知... 氏中... 忠... 子

女子二人

長女... 二弟...

保苗

胎... 師

保門

母... 氏定女

妻... 氏定長女

後妻... 氏定女

貞享元年... 氏定

六... 氏定

家... 氏定

年... 氏定

月... 氏定

保收

元... 氏定

加... 氏定

系

年月日... 松平屋... 子...

系

植松氏

高月... 氏... 氏...

女子二人

中下... 氏...

保教

昭... 氏...

母 家女

妻 武... 氏...

妻... 氏...

妻... 氏...

享保六年... 氏...

甲辰年... 氏...

十二月... 氏...

松平... 氏...

五保

松平... 氏...

享保八年七月八日命書  
松田清之助重隆長子

保能

昭和十夏 幼長帝 又升為源之侍

年八月少知長官升為少知長官正相長子之儀  
病身有言保能八年八月少知長官之子成  
寛定不與在年八月下病死

女子

長谷 升為少知長官正相妻

保脩

昭和五年 幼長帝 昭和湖池

母武川孫七帝國陸女

長谷 書福王也長門佐道女

寛保二癸亥年七月朔日初白 清國身之寶  
曆二壬申年十一月七日初夜長官命書切東  
北百法之西和己丁亥年十一月七日家替之月  
安永六年二月 六七年二月二日西九折の敷の天候久方傳  
松田清之助重隆長子



之令其女承了爾年六月廿日御覽  
至之忠太信藏求遠海以江月以四年月  
忠信御覽心之忠 四年七月八日御  
覽

孝恭皇后 慶應二年八月廿六日  
甲午九月初五日刻印九月庚子年七月廿日  
高史少帝慶應二年七月廿日御覽

湖隨及  
改和 竹田行幸 攝政大臣

昭和二年七月廿七日大正若竹園御覽  
改和子

正廣 本員人 御覽

宣月殿上寶曆九年六月九日新  
紀之忠太信藏求遠海以江月以四年月  
正廣御覽心之忠 四年七月八日御  
覽

女子 大正 御覽

半世仕仕内孫ゆ成成嫁以成成病死後  
松平越前守方知隠指信

女子

大島徳之助の義女

昭和五年八月 功永名

保節

母 福多良子 徳之助女

素因友亦文之子女

高之百信

昭和六年九月 昭和功の 清見の女中

辛酉年二月 昭和功の女中 昭和元年三月 昭和五年

十月九日 昭和功の女中 昭和元年三月 昭和五年

是年より昭和功の女中 昭和元年三月 昭和五年

昭和五年三月 昭和功の女中 昭和元年三月 昭和五年

昭和五年三月 昭和功の女中

昭和五年三月 昭和功の女中

重政

昭和五年三月 昭和功の女中 昭和元年三月 昭和五年

昭和五年三月 昭和功の女中

信廣 佐友兼名

西永九屋子年二月六日... 佐友兼名

成和 夫指名大男 初忠太郎

天保二壬寅年九月... 夫指名大男

教中 膳部前年次

女子 少

梁性... 膳部前年次



平次 膳部

名... 膳部

重長

母 吉也載

廣長... 膳部前年次

元和九年、清河大綱之屬、  
志摩守、  
家督、  
年、浪人、  
十月、

系 祖 孫 傳

清河大綱之屬、  
之後、

長次 昭 昭 昭 昭

母 子 孫

寛永十年、  
初、  
萬曆二年、  
善 昌 隆 壽



長嶽 昭如之丞

長嶽

母 三之丞

享保十九甲寅年六月八日家督少重信の元文  
元富申年六月十日西九半人の同女屋申年  
四月五日右為替及道智由の家督長己亥年  
七月八日病死少重信の妻水一甲午年四月  
廿日病死少重信の同女屋

長嶽 昭如之丞 位牌  
昭如之丞

新太郎

長嶽

母 昭如之丞 少重信 長嶽之丞

妻 昭如之丞 少重信 長嶽之丞

高直 昭如之丞

明和三年八月廿六日解任長子の西水之  
甲午年七月八日家督由重信の同女屋申年  
二月十日西九半人同女屋申年四月十日  
存養院縁 長嶽 昭如之丞

寛永十七年七月六日病光少齋信

*[Faint, mostly illegible handwritten text]*



平姓  
昭部

貞代主事信統史少年

腹記了伯

順定

母  
書  
多  
知

上徳信徳氏信所自少幼迄長成切其百歳

以下  
中  
下  
切  
外  
科  
信  
統  
史  
少  
年  
信  
統  
史  
少  
年  
信  
統  
史  
少  
年

卷首後極代 御筆 所因存候今亦極代  
以曆二箇申年九月病死候之由事所  
由存守之

補正 實母之知  
實母之知  
實母之知

了仙

卷母之知  
實母之知  
書 卷父順定女

卷首後極代 申年八月病死候之由事所  
由存守之  
年七月病死候之由事所

女子 卷子極代了仙書

極代 極代了仙

母 極代了仙順定女  
了仙書

卷首後極代 申年八月病死候之由事所  
由存守之  
常世院極代 申年八月病死候之由事所  
由存守之  
立日病死候之由事所  
月九年申年七月病死候之由事所



水知年八月廿五日  
三子山海字家南三弟男  
拓行元

忠賢

養母分一

交海分一  
書 海内十年次盛茂女

家忠高年七月晦日吉子同日九月八日

買兒年始吉吉月及及礼如江の京保七十五

年七月今下家結吉吉月及及礼如江の京保七十五

海内陸海字家南三弟男  
拓行元

年 海内陸海字家南三弟男  
拓行元

唐申年十二月之限在の室曆八戌年十二月  
十日病在在之歲海也拓行元

時亮

拓行元

見忠賢分一

養母分一

拓行元

時亮

養母須田の年次盛茂女

家母分一

書 海内陸海字家南三弟男  
拓行元

年以り之幼少子之元めえ有在年二月庚戌  
 淨圓人之は法化知は二月庚申年十二月旨  
 家結を合の寛保二五年二月廿日吉晴降  
 〇延享元年甲子年九月廿九日吉吉光の吉合〇  
 天所元年丑年十一月廿九日吉吉光の吉合〇  
 〇寛保二五年二月廿九日吉吉光の吉合〇

正廣 松原元水

寛政二五年二月廿九日吉吉光の吉合〇  
 松原元水の正廣

保祐 昭徳了心

淨圓分系はあ水六甲申年二月廿九日病死  
 指九葉  
 昭徳了心 正長吉  
 見廣

あ水六甲申年八月十日吉吉光の吉合〇  
 八月十日 淨圓分系はあ水六甲申年十月  
 七日 病死松原元水母家田代吉光

恭治

回醫師

実名何 順治元元 功五五

昔母有疾半以是而程久女

實母名海玄記子鐘女

書 可醫師 小山清安正定女

二三百倍

年八月之義也子乃大原元事世年八月日

神皇元之孫也此はは國二三百年十月

六日家信是命定政七年六月七日西島醫師

女子

少善信の醫師

西村長春元福妻

行号

順治元元

尚親

少善信の醫師

生好也書行

初年次中

寛政元元酉年十月日少善信の醫師

生野由行尚親女子



弘政 昭和元年

昭和元年十月十日... 昭和元年十月十日... 昭和元年十月十日...

儀氏 昭和元年

昭和元年... 昭和元年... 昭和元年... 昭和元年...

弘儀 昭和元年

昭和元年... 昭和元年... 昭和元年... 昭和元年...

春原姓

昭和

昭和元年... 昭和元年... 昭和元年...

昭和元年... 昭和元年... 昭和元年...

昭和元年... 昭和元年... 昭和元年...

儀氏

昭和元年... 昭和元年... 昭和元年...

昭和元年... 昭和元年... 昭和元年...

昭和元年... 昭和元年... 昭和元年...

其父推知源之忠義其子番紅勤少曾傳入  
 仁宗永二箇年二月年廿九子之正徳元卯年  
 二月其父源伯之忠義其子番紅勤少曾傳入  
 二月日之忠義其子番紅勤少曾傳入  
 通之寬延二年十一月十七日忠義其子番紅勤少曾傳入  
 二箇年二月日忠義其子番紅勤少曾傳入  
 二月日忠義其子番紅勤少曾傳入  
 二月日忠義其子番紅勤少曾傳入  
 二月日忠義其子番紅勤少曾傳入

弘曉 昭如子師 早世

則次 昭如父師

母 推知源之忠義其子

妻 家女

享保九年十一月廿七日忠義其子番紅勤少曾傳入  
 年十二月廿七日忠義其子番紅勤少曾傳入  
 持方推人持持方知見也十師務其正徳元卯年  
 昭如其正徳元卯年十一月廿七日忠義其子番紅勤少曾傳入  
 二月日忠義其子番紅勤少曾傳入  
 昭如其正徳元卯年十一月廿七日忠義其子番紅勤少曾傳入

門高次郎江月父上別所五勤四月四年  
十二月十日自京都道中及百餘里...  
年六月八日京都○天保八年十二月十日  
遷居及相持取分領○同月十日自京都  
多所物死七位之系以守葬  
女子 陽明院 京都法皇正親

之末者

弘藏 三十一 服部助市

母 家女

妻 水谷長左衛門三賢女

子 百屋主人持持

和以申年十二月十日...  
道人之切系...  
家督...  
八月十日...  
八月十日...  
八月十日...

京都府...  
...  
...

弘藏 又曰師 功徳院

弘藏

天保八年二月十日...  
八月十日...  
系 弘藏之末者

孝 孝通兄弟  
花井新吉郎 定省集



勝重

書母 書少知

源姓

朝宗者信

朝宗五郎者亦五信

功治河合川氏家臣之程少知事以合系  
程現極上之臣也其後在少知

義勝

朝宗者信

母家女

書之知

檀現福正少長、知以言多、後如平、中書院  
番和知實、永元甲子年、月、少知、病、死、於  
葬地、少知

宣勝

昭如、少長

母

書之知

父義、後、昭、如、系、前、字、名、系、昭、如、宣、勝、知、如、

母方、知、父、昭、如、也、係、門、方、少、長、育、仁、系、無、二、年、

年、月、日、少知

清、楊、院、極、上、少知、也、代、及、少知、實、文、之、系、卯、年、

正、月、廿、日、病、死、於、少知、少知、月、廿、日、葬、院、上、葬、

昭如、少長

成一

母家女

書之知

梅、田、院、神、殿、明、曆、之、末、年、月、少知、系、十、人、証、



年八月廿二日納戸紙以爲或百儀下○癸  
元癸丑年七月廿一日病死於○以年三歲

亥子年納戸紙以爲或百儀下○

守之

胎於糸白糸

母 亥子年納戸紙以爲或百儀下○  
妻 尾形玄澤末妹

松田政房 庚戌年十二月日為養子。

日十二壬子年 四月廿二日

清福院 納戸紙以爲或百儀下○

正月廿七日 納戸紙以爲或百儀下○  
納戸紙以爲或百儀下○  
文照院 納戸紙以爲或百儀下○  
日四下 亥子年 二月二日 病死於○  
守之 糸白糸

胎於糸白糸 限在 當身

一之

母 尾形玄澤末妹

守之 糸白糸

享保九里辰年十二月十二日之方山納戸の月十二日  
年十月廿日

小立御極道醫者に門下にして自年之方山納戸に  
功告つ以て一兩年年六月九日御年長子に同日七  
壬子年八月九日之知事書信入病死の月十八日壬子年  
十二月日官徳信の家唐之奈酉年六月廿日  
病死七位宗氏に守蘇  
女子見一之長女

天保谷信三信三無田  
勝封 胎半日師

長母家女  
妻 長父一之長女

享保一兩年年六月九日御年長子の月十二日  
年十二月十二日御年長子の月十八日壬子年十二月  
日官家格山書信清の元文二丁巳年四月九日  
西凡山納戸の月年望十一月七日病死七位長女  
以守蘇



宝曆七年十二月廿四日  
宝曆七年十二月廿四日  
宝曆七年十二月廿四日  
宝曆七年十二月廿四日  
宝曆七年十二月廿四日

孝子  
日人  
森川助五郎  
任氏妻

義道  
養母  
礼治  
八郎

実母大塚氏六道頼女

妻  
義  
高  
印  
百  
俵

宝永六丁酉年十二月廿八日  
宝永六丁酉年十二月廿八日  
宝永六丁酉年十二月廿八日  
宝永六丁酉年十二月廿八日  
宝永六丁酉年十二月廿八日

如子  
日人



源姓  
源部

新羅之帝義教流亡於國使

往於板每舟一圓源部七島

一保島

一庸

源部七島

源部一西

書田  
五之能

之海大甲年七月日官之島出部下島少切年百

女孫傳不の室永字年二月九日  
常世屋原 藤原 年月二十日  
の室原上 年月二十日  
九日 藤原七位 藤原 年月二十日

実母

藤原 氏 源氏一元

一元

実母 三ツカ

妻 三ツカ 藤原 氏 源氏一元

室永字年七月十日 卷子の 室原上 年月

二月十日 室永字年三月十日  
三月十日 室永字年三月十日  
三月十日 室永字年三月十日  
三月十日 室永字年三月十日  
三月十日 室永字年三月十日  
三月十日 室永字年三月十日  
三月十日 室永字年三月十日  
三月十日 室永字年三月十日  
三月十日 室永字年三月十日  
三月十日 室永字年三月十日

一相

昭和元年八月 初市右衛門

母 三信長 次女

田安宮攝子

妻 信長 次女 久廣女

言 百少孫信

寛延元年八月 家録 家信 家曆 八年

二月 廿日 表 右衛門 〇 明和元年 二月 廿日 〇

右衛門 〇 八月 廿日 〇 九月 廿日 〇

〇 永享元年 二月

孝恭院 御 〇 正月 廿日 〇 二月 廿日 〇

〇 天保元年 二月 廿日 〇 三月 廿日 〇

〇 文政元年 二月 廿日 〇 三月 廿日 〇

〇 七月 廿日 〇 八月 廿日 〇 九月 廿日 〇

〇 十月 廿日 〇 十一月 廿日 〇 十二月 廿日 〇

族一

昭和元年 〇

海右衛門

母法外法師之慶女

書之載

寛政二戌年十月九日家督少吉書  
九月廿五日也

義陳 小泉求了

寛政二戌年七月廿七日示收紙

小泉年三十一歲義利也子

宗屋為南八井後又之系法身也凡

女子 井後又十師位者也

平姓

服部

平之幼望一代因情与正儀之慶流

服部之師位也 甚光法胤孫也其人

良李嫡男

法正男

良一

慶安二酉年十月廿五日示收紙

元禄二乙酉年七月九日示收紙



寛平二年六月七日病歿享年七十九歳下首葬  
寺

義之

此之但るも家月  
又之好は之好のりき  
海市之末

日十二年

元禄二年七月九日病歿の事書信室中包此  
位後之元禄二年二月の事  
味及の山流地以少の傍百の傍地之り病歿  
元禄二年七月九日

少書信のりき申年六月九日病歿十九歳

義邦

海市

享保三年一月廿七日病歿の事書信室中包此

二月九日病歿の事書信室中包此

義邦子  
海市

義一

享保三年二月廿七日病歿の事書信室中包此

三月廿七日病歿の事書信室中包此  
享保三年六月十日  
享保三年十月

右之同人之事書信室中包此

義英

又三郎

海市

元和四年十月三日 家督少子夫人の御金次第

同日又少子の御金次第 七年十月十日 東海御川より少子の御金次第

凡そ先年三月九日 功徳口年四月二十日 中倉御所より少子の御金次第 三月十日 功徳口年四月二十日 中倉御所より少子の御金次第

寛政五年九月廿日 功徳口

西秋月御金次第 功徳口年四月二十日 中倉御所より少子の御金次第 三月十日 功徳口年四月二十日 中倉御所より少子の御金次第

源姓 胎幼

加茂公御源氏流清胤伊弉國公人

任幼源氏威徳流清胤伊弉國公人

嫡子

源氏流

保次

寛政五年十月十日 功徳口

卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日

保進親 廿九日

卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日

自覺 卯年

卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日

自覺行 卯年

卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日  
卯年四月廿三日

目録

長子部

西水巳年十二月  
月十九日  
月十九日

貞幹

昭光

西水巳年七月  
西水巳年十二月  
西水巳年七月  
西水巳年十二月

保道

只之忠 保十郎

西水巳年九月  
西水巳年九月  
西水巳年九月



源姓  
藤部

先祖少将源氏重房保忠子

宗子

保房

源氏重房保忠子  
年寅寅百福死目白卷大永寺

系

公家

寛文十三年一月廿四日... 寛文十三年二月廿四日... 十石之病口寺

保保 有九師 初相印 八重入

宝永十一年十一月廿三日... 病死之狂言口寺

保好 遠西次第

宝曆十三年十一月廿三日... 二月廿九日... 保定

天保三年... 天保四年... 天保五年... 天保六年... 天保七年... 天保八年... 天保九年... 天保十年... 天保十一年... 天保十二年... 天保十三年... 天保十四年... 天保十五年... 天保十六年... 天保十七年... 天保十八年... 天保十九年... 天保二十年... 天保二十一年... 天保二十二年... 天保二十三年... 天保二十四年... 天保二十五年... 天保二十六年... 天保二十七年... 天保二十八年... 天保二十九年... 天保三十年... 天保三十一年... 天保三十二年... 天保三十三年... 天保三十四年... 天保三十五年... 天保三十六年... 天保三十七年... 天保三十八年... 天保三十九年... 天保四十年... 天保四十一年... 天保四十二年... 天保四十三年... 天保四十四年... 天保四十五年... 天保四十六年... 天保四十七年... 天保四十八年... 天保四十九年... 天保五十年... 天保五十一年... 天保五十二年... 天保五十三年... 天保五十四年... 天保五十五年... 天保五十六年... 天保五十七年... 天保五十八年... 天保五十九年... 天保六十年... 天保六十一年... 天保六十二年... 天保六十三年... 天保六十四年... 天保六十五年... 天保六十六年... 天保六十七年... 天保六十八年... 天保六十九年... 天保七十年... 天保七十一年... 天保七十二年... 天保七十三年... 天保七十四年... 天保七十五年... 天保七十六年... 天保七十七年... 天保七十八年... 天保七十九年... 天保八十年... 天保八十一年... 天保八十二年... 天保八十三年... 天保八十四年... 天保八十五年... 天保八十六年... 天保八十七年... 天保八十八年... 天保八十九年... 天保九十年... 天保九十一年... 天保九十二年... 天保九十三年... 天保九十四年... 天保九十五年... 天保九十六年... 天保九十七年... 天保九十八年... 天保九十九年... 天保一百年...

天保十一年... 天保十二年... 天保十三年... 天保十四年... 天保十五年... 天保十六年... 天保十七年... 天保十八年... 天保十九年... 天保二十年... 天保二十一年... 天保二十二年... 天保二十三年... 天保二十四年... 天保二十五年... 天保二十六年... 天保二十七年... 天保二十八年... 天保二十九年... 天保三十年... 天保三十一年... 天保三十二年... 天保三十三年... 天保三十四年... 天保三十五年... 天保三十六年... 天保三十七年... 天保三十八年... 天保三十九年... 天保四十年... 天保四十一年... 天保四十二年... 天保四十三年... 天保四十四年... 天保四十五年... 天保四十六年... 天保四十七年... 天保四十八年... 天保四十九年... 天保五十年... 天保五十一年... 天保五十二年... 天保五十三年... 天保五十四年... 天保五十五年... 天保五十六年... 天保五十七年... 天保五十八年... 天保五十九年... 天保六十年... 天保六十一年... 天保六十二年... 天保六十三年... 天保六十四年... 天保六十五年... 天保六十六年... 天保六十七年... 天保六十八年... 天保六十九年... 天保七十年... 天保七十一年... 天保七十二年... 天保七十三年... 天保七十四年... 天保七十五年... 天保七十六年... 天保七十七年... 天保七十八年... 天保七十九年... 天保八十年... 天保八十一年... 天保八十二年... 天保八十三年... 天保八十四年... 天保八十五年... 天保八十六年... 天保八十七年... 天保八十八年... 天保八十九年... 天保九十年... 天保九十一年... 天保九十二年... 天保九十三年... 天保九十四年... 天保九十五年... 天保九十六年... 天保九十七年... 天保九十八年... 天保九十九年... 天保一百年...

傳全之ねり白年  
が九に在るを 磨家

服部大進 保康惣辰

保重

公吉

伊山

家智百右衛門 保康惣辰  
月乃乃死太早

保春

公吉

伊山

貞重 貞重年七り

貞重 貞重年七り  
月乃乃死太早

保平

公吉

保平 保平年七月  
保平 保平年九月

保

公吉

保平 保平年九月

○慶應元年甲午一也亦有一一仙父法隆  
寺古名新行所云誠以舟月日宗老法  
源純



源姓  
昭部

甲辰池東

東

池東信三傳

生至信公於天正十年

權現極修習法西山誠為極少細心也東  
月一上修學自予之西法法是方山船之  
長江以入修學方有同年尾法馬海之  
正名極切事也





お儒名少作人持持之儀九月廿二日保六  
年六月廿九日死

保款

新中

父保庸少少位之而所仕之有場所保系

百十三年三月廿九日

祝の者保十三年十月廿九日

百十九年四月廿九日

活の刑初の儀を有者之儀保十三年十月廿九日

百十三年三月廿九日

百十三年十月廿九日

百十三年十月廿九日  
死口寺

保脩

清御

百十三年十月廿九日

百十三年十月廿九日

百十三年十月廿九日

新中

保光

百十三年十月廿九日

天保九年十二月廿七日  
年十二月廿八日

保吉

吉印

天保九年十二月廿七日

吉印

天保九年十二月廿七日



源姓

源姓

源姓

源姓

源姓

天保九年十二月廿七日  
源姓

皇德

のち後醍醐天皇の御代に於ては、  
丁未年（1327年）に於ては、  
如左の事相あり

皇朝

久江

寛永七年（1630年）に於ては、  
日之出（1630年）の病に於ては、  
二月九日死す

皇位

長徳

志江

万治三年（1622年）に於ては、  
三月九日死す

皇教

市江

元禄十一年（1694年）に於ては、  
九月九日死す

年有月四日... 死日等

毎月の... 市進

音流

西暦八年... 死日等

音流 要人

延喜二年... 死日等

音流 市進

西暦九年... 死日等

延喜九年七月... 抄



法皇御尊

法康極 廣君極 権現極 属の奉下  
心也

心藏

奉之 存心焉

権現極止上皇極推六蔵時之勅  
法皇御尊  
今之有也。以名婦川及牛産尾山坂井之

天運、横岡、筑前池、河原、表、モ子、ウ、子、サ、カ、ラ  
田中、表、上、外、上、金、銭、之、長、大、在、陰、之、人、お、働  
度、之、之、名、在、神、在、仁、仰、之、実、銭、仕、之、後、味  
方、上、京、上、金、銭、之、長、番、陰、仕、方、の、陰、之、人、お  
漢、和、之、藏、伊、知、之、之、名、百、年、人、の、飲、之、後  
罪、亦、亦、打、入、今、時、也、百、人、の、飲、之、伊、知、之、後、  
之、能、以、以、月、有、人、之、飲、於、我、場、也、是、也、  
之、名、之、以、之、天、正、七、年、九、月、十、日、之、御、尊、表、  
二、保、任、康、極、心、之、名、也、今、時、檢、使、天、方、也、





高野寺所奉末田田守令更奉末田田守  
伊賀忠之志之孫余人之河原正也今夜  
浦城之打向方一平及之山經九平人等  
追之城之池河之池田通之志之孫之退而西  
中知之志之孫之池田通之志之孫之退而西  
浦之付系方切之志之孫之退而西  
伊賀之志之孫之池田通之志之孫之退而西  
碧村之志之孫之池田通之志之孫之退而西

浦城之打向方一平及之山經九平人等  
追之城之池河之池田通之志之孫之退而西  
中知之志之孫之池田通之志之孫之退而西  
浦之付系方切之志之孫之退而西  
伊賀之志之孫之池田通之志之孫之退而西  
碧村之志之孫之池田通之志之孫之退而西

保心

保心

保心保心保心保心保心保心保心保心保心保心

二年十二月五日 於多々味方ノ東 哉  
死回九

東 言 十部一所

控現存上ノ名者天正十二年於産品致記

東 言 久多又ノ名者

御家ノ名者如東和

正統 言 源氏者 事之

昭聖平保後打死後將一高古為初少者

正統者坊住ノ法事流蒙田勅氣他父

松平越中ノ名飲ノ高古者ノ名祖名也

名流推ノ歳ノ江ノ月婦ノ名氣ノ事

一番ノ後ノ公ノ一文字ノ一文字ノ後

控現存拜願仕

一席在焉

保英

永禄十年 控ノ歳ノ公ノ姓ノ公ノ事







七辰年一月廿九日死六拾七歳正月

保忠

一節七歳

元禄六年一月廿九日死六拾七歳正月

若者死後成と云初の歳忠之元年十月

二十日死六拾七歳正月

保時

一節七歳

元禄六年一月廿九日死六拾七歳正月

若者死後成と云初の歳忠之元年十月

二十日死六拾七歳正月

元禄六年一月廿九日死六拾七歳正月

若者死後成と云初の歳忠之元年十月

二十日死六拾七歳正月

保慶

一節七歳

元禄六年一月廿九日死六拾七歳正月

保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日

保和 一年 保和二年

保和

保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日

保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日

保和二年

保和

保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日

保和二年 一年

保和

保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日  
保和二年九月廿九日

保和二年 一年

保和

壬午七月廿九年九月廿日  
保部  
十月廿日  
十一月廿日  
十二月廿日

平姓  
保部

保部  
平姓  
保部  
平姓

保部

壬午七月廿九年九月廿日  
保部  
平姓  
保部  
平姓



○主後日延多改日百名石少加倍の如き地方。  
故不致公の百名石の事又安元三年七月に  
安元三年法紀改の百名石加倍の日也同年七  
月病死の事公の事也安元三年七月八日病  
死の事と果は日吉西云寺の事

保好

平名

萬治三年 百石の事 父の九百名石の内百名石の事

二百石の事 母の事 父の地は事法也

平名流傳の事 初代 自寛永二年八月五日

死に後六歳なり

保永

平名

天和三年九月十日有平名流傳の自寛永三  
年十二月八日家督の元禄九年七月十日  
病死の事と果は日吉

保信

平名

元祿九年二月廿六日家督少書後三月廿年  
分家白忠性祖の家永二年八月廿少書  
清享保九年八月廿死少書後八月廿

八十郎 古馬七 平吉

保棟

享保九年正月廿の家督門十四年九月の西九平書院  
者の家暦十二年正月廿死少書八月廿

保命

源左衛門

家暦十二年八月廿の家督門十五年三月の西九平書院  
の西九平書院の西九平書院の西九平書院  
死少書八月廿

長吉

保暎

天保元年十二月廿の家督門二十年三月の西九平書院  
の西九平書院の西九平書院の西九平書院  
死少書八月廿

保松

長吉 平吉

又賜戸部丞年保命於男

之百石

白年正月十日

高年九月八日家督在後(采姓地)

宣及二年二月之中里(上院)口年六月

平姓

服部

服部伊賀守宗氏(中保)

保信

天長二年(接書)

保信(保信) 保信(保信)

河○元九元月年大徳神田氏。  
寛永七年本國以十日病死享年  
九十一。其長孫傳興。年三十一。

五子

保重

大徳神田氏大徳者。元九二十年。其  
子病死。同寺。

元九  
五子

保儀

元九二。其年十二月。百家。其  
後大徳者。元九二。其年二月。百大  
徳。其年三月。其年三月。其年三月。  
病免。同年十月。其年十月。其年十月。  
其年十月。其年十月。其年十月。

其年十月。其年十月。其年十月。  
其年十月。其年十月。其年十月。

保利  
始保壽

史記... 國史...  
 大正... 二月...  
 卒一某日寺

湯島... 志...

某

元... 四月... 卒...

長七郎... 運...

保勝

元... 初見...  
 永六... 享保...  
 二... 同...  
 十... 卒...

法... 傳...

保類

享保三十八年十二月九日  
 享保三十九年十一月九日  
 享保四十一年十一月九日  
 享保四十二年十一月九日  
 享保四十四年十一月九日  
 享保四十六年十一月九日  
 享保四十八年十一月九日  
 享保五十年十一月九日  
 享保五十二年十一月九日  
 享保五十四年十一月九日  
 享保五十六年十一月九日  
 享保五十八年十一月九日  
 享保六十年十一月九日  
 享保六十二年十一月九日  
 享保六十四年十一月九日  
 享保六十六年十一月九日  
 享保六十八年十一月九日  
 享保七十年十一月九日  
 享保七十二年十一月九日  
 享保七十四年十一月九日  
 享保七十六年十一月九日  
 享保七十八年十一月九日  
 享保八十年十一月九日  
 享保八十二年十一月九日  
 享保八十四年十一月九日  
 享保八十六年十一月九日  
 享保八十八年十一月九日  
 享保九十年十一月九日  
 享保九十二年十一月九日  
 享保九十四年十一月九日  
 享保九十六年十一月九日  
 享保九十八年十一月九日  
 享保九十九年十一月九日

青次郎同本年十一月九日  
 七年<sup>三月九日</sup>免<sup>三月九日</sup>而合何復家<sup>三月九日</sup>  
 年三月九日免<sup>三月九日</sup>而合何復家<sup>三月九日</sup>  
 年三月九日免<sup>三月九日</sup>而合何復家<sup>三月九日</sup>

町助常備門保保

保之

寶曆二年十一月九日  
 永正二年十一月九日  
 地勤同八月九日  
 享保三十八年十一月九日  
 享保三十九年十一月九日  
 享保四十一年十一月九日  
 享保四十二年十一月九日  
 享保四十四年十一月九日  
 享保四十六年十一月九日  
 享保四十八年十一月九日  
 享保五十年十一月九日  
 享保五十二年十一月九日  
 享保五十四年十一月九日  
 享保五十六年十一月九日  
 享保五十八年十一月九日  
 享保六十年十一月九日  
 享保六十二年十一月九日  
 享保六十四年十一月九日  
 享保六十六年十一月九日  
 享保六十八年十一月九日  
 享保七十年十一月九日  
 享保七十二年十一月九日  
 享保七十四年十一月九日  
 享保七十六年十一月九日  
 享保七十八年十一月九日  
 享保八十年十一月九日  
 享保八十二年十一月九日  
 享保八十四年十一月九日  
 享保八十六年十一月九日  
 享保八十八年十一月九日  
 享保九十年十一月九日  
 享保九十二年十一月九日  
 享保九十四年十一月九日  
 享保九十六年十一月九日  
 享保九十八年十一月九日  
 享保九十九年十一月九日

宮中御用掛 藤原 良房

忠量

俊保教

言三百條

天保四年三月十日  
四月七日  
九年八月十日



平姓

天保四年七月  
後取

八五

重長

父和泉守重長  
三子  
重長





大目<sup>初死</sup>病死日有<sup>二</sup>矣

云死

呂氏

元禄己未年十二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年  
二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年  
二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年  
二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年  
二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年  
二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年  
二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年  
二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年  
二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年  
二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年

大目<sup>初死</sup>病死日有<sup>二</sup>矣

呂氏

元禄己未年十二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年  
二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年  
二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年  
二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年  
二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年  
二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年  
二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年  
二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年  
二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年  
二月有<sup>一</sup>疾<sup>〇</sup>因<sup>〇</sup>年

教昭

大目<sup>初死</sup>病死日有<sup>二</sup>矣



平竹  
振部

服部海守字宗純五代左衛門尉政要男

右  
五系進

檢書吏

改元

神改要

永祿二年六月甲申旬今八月

御田信長於尾州中親於崇德公

戰書

後醍醐天皇親征於足利長時

江 東 是 別 以 之 底 子 也 知  
其 洋 敵 任 命 元 寇 之 津 本 味 方  
平 山 合 戰 之 後 海 陸 兩 方 押 込  
御 東 夷 城 之 兵 卒 亦 年 終 未  
王 治 十 年 九 月 十 日 信 長 公 孫 法 中 少 左 兼 右 兵 衛 督 平 月 治 等 三 人 為 首  
將 十 年 郎 右 衛 門 尉 佐 少 左 兼 右 兵 衛 督 平 月 治 等 三 人 為 首 之 兵 卒 於 十 月 十 三 年  
二 月 二 日 死 于 千 葉

推 後 史 御 東 十 郎

政 季

推 後 様

天 正 十 年 甲 辰 年 九 月 十 日 信 長 公 孫 法 中 少 左 兼 右 兵 衛 督 平 月 治 等 三 人 為 首  
將 十 年 郎 右 衛 門 尉 佐 少 左 兼 右 兵 衛 督 平 月 治 等 三 人 為 首 之 兵 卒 於 十 月 十 三 年  
二 月 二 日 死 于 千 葉  
武 州 大 田 庄 之 内 冬 子 右 兵 衛 督 信 長 公 孫 法 中 少 左 兼 右 兵 衛 督 平 月 治 等 三 人 為 首  
將 十 年 郎 右 衛 門 尉 佐 少 左 兼 右 兵 衛 督 平 月 治 等 三 人 為 首 之 兵 卒 於 十 月 十 三 年  
二 月 二 日 死 于 千 葉

武 州 大 田 庄 之 内 冬 子 右 兵 衛 督 信 長 公 孫 法 中 少 左 兼 右 兵 衛 督 平 月 治 等 三 人 為 首

武 州 大 田 庄 之 内 冬 子 右 兵 衛 督 信 長 公 孫 法 中 少 左 兼 右 兵 衛 督 平 月 治 等 三 人 為 首  
將 十 年 郎 右 衛 門 尉 佐 少 左 兼 右 兵 衛 督 平 月 治 等 三 人 為 首 之 兵 卒 於 十 月 十 三 年  
二 月 二 日 死 于 千 葉

天 正 十 年

御 東 十 郎

推 後 様

武 州 大 田 庄 之 内 冬 子 右 兵 衛 督 信 長 公 孫 法 中 少 左 兼 右 兵 衛 督 平 月 治 等 三 人 為 首  
將 十 年 郎 右 衛 門 尉 佐 少 左 兼 右 兵 衛 督 平 月 治 等 三 人 為 首 之 兵 卒 於 十 月 十 三 年  
二 月 二 日 死 于 千 葉

刑字部子部紙字文御宿鳥  
鳥部口字部十九官本上取少陣  
字部鳥部口字部十九官本上取少陣  
鳥部口字部十九官本上取少陣  
鳥部口字部十九官本上取少陣

待久史 子十郎

政信

台徳流原 武州解  
鳥部口字部十九官本上取少陣  
鳥部口字部十九官本上取少陣

鳥部口字部十九官本上取少陣  
鳥部口字部十九官本上取少陣  
鳥部口字部十九官本上取少陣  
鳥部口字部十九官本上取少陣  
鳥部口字部十九官本上取少陣  
鳥部口字部十九官本上取少陣  
鳥部口字部十九官本上取少陣  
鳥部口字部十九官本上取少陣  
鳥部口字部十九官本上取少陣  
鳥部口字部十九官本上取少陣

内并最... 敬令... 百九...  
 若七... 利... 大...  
 大... 也... 病...  
 有... 新...  
 武子... 子...  
 宣... 卒...

政重

本之解

政次 重...  
 之... 也...  
 日... 也...

政勝 重...  
 之... 也...  
 日... 也...

政...  
 之... 也...  
 日... 也...

重...

重... 也... 也...

台... 也... 也...

但... 也... 也...

也... 也... 也...

也... 也... 也...

政長

重...

重...

信成  
宣永三年  
宣永三年  
宣永三年

改文

古著既

石岡  
宣永十五年二月  
宣永十五年二月

信利  
改文

新馬

信成

宣永三年  
宣永三年  
宣永三年

宣永三年

宣永三年  
宣永三年  
宣永三年

宣永三年

初九年三月... 淨宗寺...

授受

信解

丁卯年... 家格... 内... 和... 同... 年... 国... 信... 保... 凡... 年... 信... 授... 受... 七十二年...

授受

信解

享保十六年... 信... 授... 受... 七十二年...



信  
寛政十一年  
五月  
廿五日  
信  
寛政十一年  
五月  
廿五日

信

兄  
永  
日  
年  
七  
月  
廿  
五  
日  
初  
九  
日  
年  
五  
月  
廿  
五  
日  
年  
五  
月  
廿  
五  
日

信  
寛政十一年  
五月  
廿五日

信

寛政十一年  
五月  
廿五日

信  
寛政十一年  
五月  
廿五日

信

寛政十一年  
五月  
廿五日



平姓

藤部

後醍醐天皇御代之御時

之方

乃平部親貞所遺御時

自伴

元祿七年十一月五日

子七百九十九日

白雲  
正徳九年九月六日  
仲冬知正徳九年二月  
元辛巳年世田若西福寺

九十年

白雲

正徳九年九月六日  
正徳九年二月  
元辛巳年世田若西福寺

正徳九年九月六日  
正徳九年二月  
元辛巳年世田若西福寺

正徳九年九月六日

白雲

正徳九年九月六日  
正徳九年二月  
元辛巳年世田若西福寺

美濃縣之古事  
國史部

貞圓

明弘治元年九月廿日  
年七月廿九日  
卒於平二氣日等

年六月  
少初  
全日九年三月  
計之西

貞成

西永之字  
家終

年七月八日  
西九月十日

此の條は現物  
山間多

美濃縣  
國史部

美濃縣  
國史部

平姓

指形

後部

名

店

貞正

寛文九年

年七月廿九日

皇國二月以少切希皇後。是  
寶元元年十一月七日表出此國  
二月廿五日側出此國八月廿五日  
廿九日

淨德院標出此。之。之。本年同封  
其新所九月廿七日少皇後合員  
高之。萬年十一月廿七日院者。元  
二年十一月廿七日同封。同封  
十一月廿七日。同封。二年十一月廿七日

皇國同封。二年七月廿七日。皇國  
德之。上年十一月廿七日。同封。元  
統。何。何。何。何。

皇國  
二年十一月廿七日

皇國

皇國二年十一月廿七日。皇國  
二年十一月廿七日。皇國  
二年十一月廿七日。皇國  
二年十一月廿七日。皇國



貞原

三之三原

安永八年七月... 宣政元年  
三月十九日... 甲府... 日六年  
八月十日... 日先... 也

貞原  
貞原



牛姓

服約

伊賀年丙午... 貞原

与正行方

源清

保心

行現... 貞原

貞原... 貞原

川味方尔武田信玄之决合戦之刻  
於馬島有戦死早九果此列之志  
云々

順治二年 始白身

保成

特原原者 鳥栖又復之 誠恐下法  
守口之志十二年七月抄 龍川  
反逆抄置一益之同 予希指此虎  
州解江成 他由攻以良於此云

戦死二年五果口示

保成

保成  
特原原者知也 良以 良祖又善之  
守口之志 誠恐下法 思良之志  
云々  
本國用此也云々  
古徳原者 此代也 守口之志 守口之志



其年大倉番。○三喜屋少喜住明曆元年。未年。付掛。下  
病死。半百。其時。其年。西運寺。

山久美 初年八

係好

寛永十五年。未年。付掛。初年八。  
七年。未年。付掛。大倉番。○同九年。少喜屋。三喜住慶安元年。未年。  
初年八。付掛。初年八。○同九年。少喜屋。三喜住慶安元年。未年。初年八。  
○同九年。少喜屋。三喜住慶安元年。未年。初年八。○同九年。少喜屋。三喜住慶安元年。未年。初年八。

原年  
初年

合二百後。元禄元年。未年。付掛。初年八。  
初年八。付掛。初年八。

山久美 初年八

係近

明曆三年。未年。付掛。初年八。○同九年。少喜屋。三喜住慶安元年。未年。初年八。  
七年。未年。付掛。初年八。○同九年。少喜屋。三喜住慶安元年。未年。初年八。  
十二年。未年。付掛。初年八。○同九年。少喜屋。三喜住慶安元年。未年。初年八。  
新曆元年。未年。付掛。初年八。○同九年。少喜屋。三喜住慶安元年。未年。初年八。

高倉屋後。元禄四年三月廿五日  
奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。  
同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。  
元禄五年七月廿五日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。  
高倉屋。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。

源氏部

保继

宝永六年。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。

○山内。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。  
同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。  
同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。  
同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。  
同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。

高倉屋 山内

保親

享保八年。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。  
同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。  
同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。同日。奉旨。

月十日卯刻 丙午年九月廿三日

謝 印行印泥年

保之

寬保三年九月廿三日 丙午年九月廿三日  
子年九月廿三日 丙午年九月廿三日  
丙午年九月廿三日 丙午年九月廿三日  
丙午年九月廿三日 丙午年九月廿三日  
丙午年九月廿三日 丙午年九月廿三日  
丙午年九月廿三日 丙午年九月廿三日  
丙午年九月廿三日 丙午年九月廿三日

梓原 河邊 江州 坂本

今言 丙午年九月廿三日 丙午年九月廿三日  
丙午年九月廿三日 丙午年九月廿三日  
丙午年九月廿三日 丙午年九月廿三日  
丙午年九月廿三日 丙午年九月廿三日  
丙午年九月廿三日 丙午年九月廿三日  
丙午年九月廿三日 丙午年九月廿三日  
丙午年九月廿三日 丙午年九月廿三日



保嘉

女部

三三三三三

宣統元年十二月廿七日



五

